

認知症サポーター養成講座副読本

認知症で

あってもなくても

ともに生きていく

パートナーのための

テキスト



西宮市キャラクター

みやたん
TEKU^{WAKU} NISHINOMIYA

みにやっこ

発行／西宮市 令和5年1月

認知症施策について

認知症施策については、国(厚生労働省)において、令和元年6月18日に、認知症施策推進関係閣僚会議より、「認知症施策推進大綱」がとりまとめられました。

「認知症施策推進大綱」では、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会をめざし、認知症の人や家族の視点を重視しながら、「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進していくこととしています。

その上で、この基本的な考えの下、以下の5つの柱に沿って施策を推進することとなっています。

- ①普及啓発・本人発信支援
- ②予防
- ③医療・ケア・介護サービス・介護者への支援
- ④認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援
- ⑤研究開発・産業促進・国際展開

「共生」とは

認知症であってもなくても尊厳と希望を持ちながら同じ社会でともに生きる、という意味です。

生活上の困難が生じた場合でも、重症化を予防しつつ、周囲や地域の理解と協力の下、本人が希望を持って前を向き、自らの力を活かすことで、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる社会をめざします。

「予防」とは

「認知症にならない」という意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を緩やかにする」という意味です。

西宮市の現状や認知症への取り組みについて

(1) 西宮市の高齢化率、人口の推計

	2017.3	2021.3	2022.3	2027(推計)
人口	485,025	483,641	482,204	480,711
65歳以上人口	112,003	117,252	117,850	128,306
75歳以上人口	53,518	59,717	61,633	76,541
高齢化率	23.1%	24.2%	24.4%	26.7%

- 西宮市も着実に高齢化は進んでおり、特に年々、後期高齢者人口が増えています
- 65歳以上の認知症有病率は15%。西宮市にも2022年3月現在17,678人の認知症高齢者がいると推測されます

資料：第5次西宮市総合計画
国立社会保障・人口問題研究所(将来推計人口)

(2) 西宮市の認知症の取り組みについて

認知症高齢者の増加が見込まれるなかで、国の「共生」と「予防」を両輪とした認知症施策推進大綱を踏まえ、認知症に関する理解の促進をはじめ、認知症の予防、認知症を早期発見・早期対応できる仕組みや、認知症の人とその家族を支える体制の充実に取り組み、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても安心して日常生活を過ごせる社会の実現をめざします。

認知症への社会の理解が深まり、認知症の人やその家族が
地域で自分らしく暮らし続けることができている

認知症に関する 理解の 促進・啓発の充実

- 各種講座の実施（認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座、キャラバン・メイト養成講座、声かけ講座など）
- 認知症サポーター及びキャラバン・メイトの養成
- 啓発用のパンフレットや冊子の発行
- あったか見守り声かけ訓練や講座の実施、動画配信

認知症を早期発見・ 早期対応できる 仕組みづくり

- 認知症早期発見・早期対応啓発講座の実施、動画配信
- 地域活動（西宮いきいき体操、つどい場など）での認知症チェックシートの活用
- 協力事業者による高齢者見守り事業
- 認知症初期集中支援チーム（相談窓口オレンジサポート）による支援体制の充実

認知症の人や 介護者を支える 体制の充実

- 認知症つながり推進員（認知症地域支援推進員）の配置
- 認知症介護者の会「さくら会」
- 高齢者介護者の集い「ひまわり会」
- 若年性認知症交流会「わかみや会」
- 認知症カフェ
- 認知症SOSメール配信事業、徘徊高齢者家族支援サービス事業
- 認知症サポーターのいる企業・事業所へのステッカー配布等による地域での見守り
- 介護サービス事業者等の専門職を対象とした研修会・勉強会等の開催

● 認知症予防の2つの意味を知ろう 【令和元年6月認知症施策推進大綱より】

1. 「認知症になるのを先送りにする」には…

う：運動習慣
え：栄養バランス・お口の健康
き：休憩・リラックス・睡眠
い：生きがい・趣味・社会交流
ち：知識・正しい理解
だ：ダメージを減らす

認知症予防習慣の
コツとポイント
「う・え・き・い・ち・だ」に
注意して生活しましょう！

参照 認知症チェックシート西宮版 P.6



2. 「認知症になっても進行を緩やかにする」には…



「う・え・き・い・ち・だ」
に加えて右記の①②が
大切です！

- ① 今までの生活をできるだけ長く続ける
- ② 役割を持って、生活に張りあいや生きがいを感じる

● 認知症に備えるって何をするの？

① 将来認知症になった時、認知症になった自分を受け入れられる“自分”になっておく！

還暦を迎えた人は、亡くなるまでに55%が認知症を発症すると言われていています(福岡県久山町調査)。認知症を自分事・みんな事と捉え、認知症の自分とうまく付き合いながら、自分らしく生活していけるように、認知症を否定するのではなく、受け入れられる自分をめざすことが最大の備えではないでしょうか。

認知症の正しい理解や認知症を受け入れ、自分らしく生活している人の姿を知ることからはじめましょう！

② 元気なときからのご近所づきあい

ご近所づきあいや趣味活動、ボランティア活動など人との交流を持ち、社会参加することで、認知症になっても安心した暮らしが続けやすくなります。

③ 認知症に関する正しい知識をもつ

認知症についての相談先や気づいた後、どんな行動をとったらいのか、知識としてもっておくことが大事です。



1. なぜ、早期発見・早期対応が大事なのか？

- ① 本人も周りの人も認知症について考え、理解を深める時間があり、将来について準備することができる
- ② 早めに治療を開始し生活を見直すことで症状を改善し、進行を遅らせることができる
- ③ 早期からケアを受けることで精神症状や行動上の問題が減り、穏やかに生活できる可能性が高くなる
- ④ 受診の結果、認知症以外の病気と判明し、原因疾患を治療することで認知症状が軽減もしくは治まる可能性がある

治療の機会を
失わないように
しましょう！



2. 認知症に気づく力をつけよう

症状が出ていてもそれが認知症の症状と知らなければ見過ごしてしまい、進行してから慌てるということが起こります。このようなことにならないよう一人ひとりが認知症に気づく力をつけ、少しでも早く認知症かも？に気づき、対応していくことが重要です。

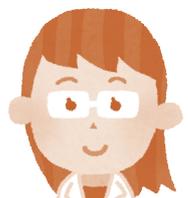
気づきのポイントを知り、“年だから”と放置せず気づいたら勇気を出して受診や相談などの行動に移しましょう！

気づきのポイント

自分の
気づき

- ① 今日が『何月何日』『何曜日』、今『何時』か、わからないことが増えた
- ② 毎日のように探し物をしている
- ③ 忘れるのでよくメモをとる
- ④ 質問したら、『何回も聞いた』と言われる
- ⑤ 買い物では計算が面倒でお札を出す
- ⑥ 料理のレパートリーが減り、味付けも自信がもてない
- ⑦ 何をするもの億劫に感じる
- ⑧ テレビ番組の内容がわかりにくい
- ⑨ 車の運転が下手になった
- ⑩ 自宅の方向がわからなくなることがある

『おかしいな』と
感じたら、
受診・相談
しましょう！



家族・周囲
の気づき

- ① 同じことを何度も言う、質問する
- ② いつも探し物をしている
- ③ 薬の飲み忘れが目立つ
- ④ 財布・通帳・衣類などを盗まれたと言う
- ⑤ 料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった
- ⑥ 話のつじつまがあわない
- ⑦ 慣れた道で迷う
- ⑧ 些細な事で怒りっぽくなった
- ⑨ 周りへの気遣いが無くなり頑固になった
- ⑩ 手足が震えたり、歩幅が狭くなり、転倒しやすくなった

もの忘れ以外の
症状にも注意
しましょう！



3. 認知症かなと思ったら、どこに受診すればいいのか

● かかりつけ医がいる → かかりつけ医に相談

参照 認知症サポートべんり帳 p.4

かかりつけ医から、「専門医の紹介」や「必要な検査につなげてもらう」ようにしましょう。早期発見することで早期治療を開始すると同時に日々の生活を自分らしく過ごす手立てを考え実行するため、相談できるところとつながることが重要です。

● かかりつけ医がない → 専門医に相談

専門医とは、精神科、心療内科、神経科、神経内科、脳神経外科、もの忘れ外来などです。

4. 認知症かなと思ったら、どこに相談したいらいいのか

参照 認知症サポートべんり帳 p.3

- 介護保険制度や成年後見制度の利用など
様々な相談
→ 西宮市高齢者あんしん窓口
(地域包括支援センター)
- 地域の身近な相談相手
→ 民生委員・児童委員
- 「専門医療相談」や「詳しい診断の相談」
→ 認知症疾患医療センター

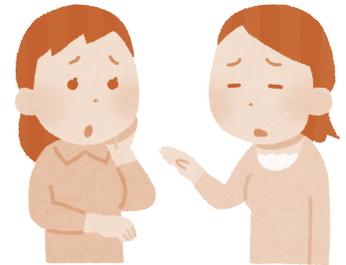


● 若年性認知症とは

他の病気と同じで認知症も高齢者だけが発症するものではありません。若くして認知症になる人もいます。18歳～64歳までに発症する認知症を若年性認知症と呼び、西宮市でも200人以上の人がいると推定されます。

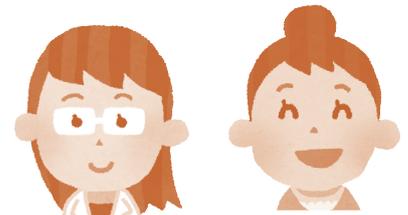
発症年齢は平均で51.3歳、約3割は50歳未満で発症しています。初期の症状はもの忘れが目立たない場合があり、年齢的にもうつや更年期障害、体調不良と間違われることもあります。

早く気づき相談することで、自分や家族に必要な制度やサービスについての情報を得たり、同じ立場の人からの経験談や意見を聞くことができます。例えば就労中の方は、相談することで就労継続についても考えることができます。その他に、経済面での制度や地域活動の情報などを得ることができます。また、障害福祉サービスや40歳以上の方は介護保険が使える場合もあります。



● 思い当たることはありませんか？

- 仕事上での失敗が増えた
- 複数の作業を同時並行できなくなる
- 仕事や作業などの段取りが悪くなる
- お金を無計画に使う
- スケジュール管理が適切に行えない
- 夜眠れない
- イライラする
- 自信がなく、やる気が出ない
- 考えがまとまらない
- 特定の料理しかつくりたくない



☆思いあたることがあれば、医療機関の受診、相談窓口へ相談をしましょう。

西宮市には、関係機関と連携して、若年性認知症の人と家族への支援を行う認知症つながり推進員(認知症地域支援推進員)が配置されています。

参照 認知症サポートべんり帳 P.3

また、若年性認知症交流会「わかみや会」を開催しています。【詳しくはP.13をご覧ください】

● 認知症の人が失っていくのは記憶だけ…？

他にも失うものがあるかも…

自信、尊厳、居場所、社会的なつながり、ものごとをうまく行う力、コミュニケーション力、言葉(伝える能力も言葉を理解する能力も)、希望など。

● 認知症になっても最期まで残っているものは…？

感情(心)は最期まで残っています

認知症になると喜怒哀楽といった感情まで失われると思われていましたが、最近の研究では認知症の人の感情面の働きは、臨終直前の瞬間まで残ることが分かっています。



● 気持ちを理解し、「共感」することから始めましょう

認知症になると何もできなくなる訳ではありません

認知症の人はマイナスの感情(悲しみ、怒り、怖れ、不安など)を抱きがちです。認知症の人は何もわからないのではありません。誰よりも本人が心配で、苦しくて、悲しいのです。

私たちは、その辛さを理解し、まずは共感することが大切です。

● 本人の声とサポーターさんに望むこと

時間がかかっても
ゆっくり説明して欲しい

私のことは私に聞いて
私の代わりに答えないで

困っていることを聞かれても困る
それよりも一緒に
楽しい時間を過ごしたい

認知症になっても
私は変わらない
急に態度を変えないで
今まで通り接して欲しい

自分の気持ちの
整理がつかない時は
そっとしておいて欲しい

もともと自分のことは
自分でやってきた
できるだけ自分のことは
自分でしたい

いつも助けて欲しいと
思っているわけではない

● 認知症の人の行動には必ず理由がある

認知症の人が例えその状況にそぐわない行動をしていても、その行動には必ず理由があります。その点を理解することが大切です。

※目的もなくうろうろと歩きまわることの意味する「徘徊」という言葉も、認知症の人には不適切な言葉と考えられています。

● 周りの人の関わり方 = 重要な環境要因

周りの人の関わり方が、認知症の人の行動・心理症状に大きな影響を与えます。

● これまでの暮らしを続けてもらうために

今までどおりの関係性を続ける

認知症の人だからといって、それまでの付き合いや関係を変える必要はありません。その人が認知症という病気になっただけです。家族や友人としてすべきことは、認知症への正しい理解を持ち、その人が苦手なところを補いながら、今までどおりの付き合いや関係を続けることです。

間違いや失敗を受け入れる

明らかに事実と違うことを言っても、否定や訂正をせず本人の感情や言動を一旦受け入れるようにしましょう。想いや感情は保たれています。自尊心を傷つける接し方は禁物です。



今できることに目を向ける

認知症であっても、簡単な家事を手伝ってもらったり、一緒に買い物に行ったり、今できることに目を向けてこれまでの暮らしを維持することも大切です。認知症になっても従来の暮らしを続けて、誰かの役に立っているという実感は、前向きな暮らしにつながります。

本人の言葉や表情から、その想いを想像する

認知症になると、自分の想いを言葉や行動で正しく表現することが徐々に難しくなっていきます。本人の様子をよく観察し、想いや困りごとの原因を想像して対応しましょう。身近な人にしか分からない仕草やクセなど、本人の出すサインを見つけてください。

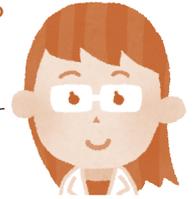
● 接し方の+1 (もし街中で見かけたら…)

もし、まちのなかで「大丈夫かな?」「認知症かな?」と思った人に出会っても、なかなか声をかけることは難しいことです。また、一人で対応できないこともあります。そんな時は、周りの人に声をかけ、協力してもらうことも大切です。

＼ 声をかける時は… /

- ① 「こんにちは」「お暑いですね」など普通のあいさつなどから声をかけてみる
- ② 「どちらまで行かれますか?」「お買い物ですか?」など、やさしく声をかけながら、様子をうかがってみる
- ③ 不可解な言動をされても慌てず、まずは落ち着いて対応する

「お近くにお住まいですか」と質問することで、本人から住所のヒントを聞き出せるかもしれませんね。
また、自分のことも少し話すと、それがきっかけで本人も話をしてくれるかもしれません。



＼ 実際に迷っている人だったら… /

- ① 安全な場所で休んでもらう
- ② 連絡先などの情報が分かれば連絡してみる
- ③ 分からなかった場合は警察に連絡する

連絡する時は、本人が不安にならないように声をかけながら必要なところへ連絡をしましょう。「私もわからないから聞いてみますね。」

などの声かけもいいですね。

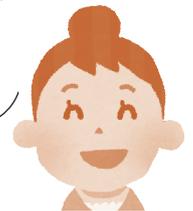
また、他の人と協力して“本人へ対応する人”と“連絡する人”など、役割分担するのも一つです。



＼ 声をかけた人が心配のない人だった場合は… /

「失礼しました」「お気をつけて」など、明るい挨拶をかわす

認知症であるかどうかを見極めるのが重要ではなく、気になった人に声をかけることが大切です。



声のかけ方を講義形式で学べる“あつたか見守り声かけ講座”もあります。

参照 認知症サポートべんり帳 p.11



・―― { 認知症であってもなくても、誰もがともに生きていく仲間です }
 ・―― { サポーター“for”から パートナー“with”へ }
 ・―― }

2019年 西宮市在住 Tさん

アルツハイマー型認知症と66歳の時に診断された夫。何か変だなと感じ始めたのは、その4年前の62歳の頃からでした。

通い慣れているはずの道を間違えるようになり、同じことを何回も言ったり、聞いたりするようになりました。12年前は情報があまりなく、勉強不足の私には漠然とした知識しかありませんでした。否定する気持ちが強かったのかもしれませんが。病院に行った結果、アルツハイマー型認知症の中期と診断されました。営業職として長年働き、人当たりの良い、誰とでも話をよくする性格の夫に限って、そんなことはないと思っていた娘と私は大変なショックを受けました。しかし、夫は認知症に対してあまり知識がなかったようで、気にせず、あまり落ち込まなかったことは、私たちにとっては、幸いなことでした。

医者話を聞き、大変なことになった、これからどうしたら良いのだろう。どこに相談したら良いのかわからないまま、夫の言動に怒り、辛く当たったりしました。

私がイライラすると夫の言動は更に激しくなる。私が気持ちを落ち着いて接すると夫も落ち着きを取り戻すことに気がついてからは「病気のんだ、仕方がないのだ」と受け入れるようにしました。それから、私自身、気持ちが楽になっていきました。

外で家族の目が届かない所で、変な行動を取り、問題を起こすことを心配し、ご近所、友人、知人に隠さず打ち明けました。中にはそれまで仲良く、家族ぐるみでお付き合いしていた方が、いつの間にか離れていってしまわれた時は悲しく辛い思いをしました。でも、思い切って打ち明け、皆様に知って頂くことができたことで、気持ちが楽になり、良かったと思います。

困難な事が次々と襲ってくることに正面から向き合う覚悟ができた反面、覚悟ができてからも、徘徊が続き、大変な時期には、先の見えない介護に疲れ、一緒に死んでしまいたいとまで思ったことが何回もありました。

理解してくださる方が増えていってからは、夫に対する感情が以前と違ってきて、変な言動も心に余裕ができたことで笑って済ますことができるようになりました。

そして、後期に入って歩けなくなり、言葉が出なくなっからは、夫婦ではなく、血のつながった家族、肉親のような愛しさを感じるようになりました。何をしてあげたら喜ぶのかを考えては、外に連れ出す機会を多くしたり、娘、孫たちと過ごしている時の顔の表情が良くなることを感じると、嬉しく幸福な気持ちになりました。

12年間の介護を終えて、5年前に74歳で見送った今は、夫のおかげで同じ環境の介護者の方たち、介護職の方たちとの出会いで、私の人生が豊かになっていることに感謝しながら日々を送っています。

認知症サポーター
養成講座を
受講される皆様へ

家族は現状を受け入れられるまでに時間と努力が必要です。そして福祉や地域の適切な協力・援助を得られれば、症状が同じでも介護者に余裕ができ気持ちが軽くなります。

認知症の人は、一人ひとり症状が違うので、援助を押し付けず、家族の話を聞いて、どう支援すれば良いか一緒に考えて頂きたいと願います。

認知症 サポーターの できること

認知症サポーターとは、「認知症サポーター養成講座」を受講し、認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かく見守る「応援者」です。

講座受講者には『オレンジリング』と『つながりカード』をお渡ししています。

オレンジ
リング



サポーターの証であるオレンジリングは、「認知症になっても住みやすいまちづくり」に向けた周知啓発のツールとして、お渡ししています。

つながり
カード



西宮市では、サポーターが自分の地域で認知症の人や気になる人を見かけた時の心構えを示した「つながりカード」をお渡ししています。西宮市のご当地キャラクターみやたとロバ隊長が目印です。

普段の暮らしの中で

まちで困っている人を見かけたら見守り、声をかけよう

認知症の人は、いつも「何か失敗していないかな」「何か間違っていないかな」と不安な思いを抱えています。また介護されている家族は、介護疲れとともに「ご近所に迷惑をかけていないだろうか」と常に神経を使われています。そんな時、『何かお手伝いしましょうか』といった温かい声かけや、家族へのねぎらいの言葉があると、安心して過ごすことができます。



オレンジリングを腕やかばんなどに日常的に付けよう

あなたも持っているオレンジリングが、認知症の人や家族にとっては理解者の広がりという意味し、力強く感じます。

認知症サポーターについて広めよう

「今日、認知症のことを勉強したよ」「こんな勉強会があるよ」と知り合いに広めましょう。一人でも多くの人に認知症や認知症サポーターについて知ってもらうことが大切です。

西宮市認知症 SOS メールへ登録しよう

認知症による行方不明は、生命の危険につながります。西宮市では、認知症によって行方不明になるおそれのある人を事前に登録し、行方不明になった際に捜索協力者へメールが配信される『認知症 SOS メール配信事業』を実施しています。

【詳しくは P.14 をご覧ください】

関心事に合わせて

地域のボランティア活動を知ろう

西宮市内には、認知症の人や家族また地域の人などが気軽に通える『つどい場』や、当事者・介護者が悩みを話せる場があります。あなたの地域にどんな場や活動があるか調べたり、見学に行ってみることで、地域ごとの『ささえあいのカタチ』を知ることができます。地域の中で自分にできることを考える機会にもなりますので、関心に合った活動を探してみましょう。【詳しくはP.13・14をご覧ください】

認知症についてさらに学びを深めよう

- ロールプレイで実践につなげたい
… あったか見守り声かけ講座
- 学んだ知識を活動に生かしたい
… 認知症サポーターステップアップ講座

参照 認知症サポートベリ帳 p.11

地域づくりの担い手(協力者)として

身近な地域でサポーターを増やそう

地域の中で、一人でも多くの人が認知症についての正しい知識と理解をもつことで、認知症の人が住み慣れた地域で安心して過ごせるようになります。

あなたの住んでいる地域の自治会、子ども会、職場、趣味のグループなどで認知症サポーター養成講座を開催する機会をつくってみましょう。

※なお西宮市では認知症サポーター養成講座の講師である「キャラバン・メイト」養成講座を概ね2年に1度開催しています。

はたらく場で

認知症の人にやさしいお店・企業になろう

認知症サポーター養成講座を受講された店舗や企業に対し、認知症の人にやさしいお店の目印としてステッカーを配布しています。認知症の人や困っているお客さんへの接し方について、従業員同士で考える機会をつくるなど、日頃から意識しておくことが大切です。



一人ひとりのちょっとした言葉や行動が、認知症の人や家族が安心して暮らせる地域へとつながります。あなたも今日から“できること”を始めてみましょう！

情報を
検索する

○社会資源情報サイト

地域活動をはじめ相談窓口、生活支援といった様々な社会資源情報を集約したサイトです。西宮いきいき体操やサロン、共生型地域交流拠点等の情報について、住所や、活動内容等の条件検索ができます。

詳細はこちら



問い合わせ

西宮市役所
地域共生推進課
☎0798-35-3286



当事者・介護者が
話せる場

○認知症介護者の会 さくら会

認知症の人を介護している人同士が、介護の方法や悩み、認知症の人と関わっていく中での心の葛藤などを打ち明け合い、経験や情報を分かち合いながら、よりよい介護をめざしています。

日時 毎月第4金曜日 13:30~15:30

年会費 1,200円

○若年性認知症交流会 わかみや会

若年性認知症の人や家族がつどい、「ほっと一息つける場」また「不安な気持ちやいろいろな思いを語れる場」「参加者がお互いに支え合える場」です。

日時 本人活動日 毎月 第4金曜日 13:30~16:00

家族交流会 偶数月 第2木曜日 13:30~15:30

奇数月 第2土曜日 10:00~12:00

参加費 100円

場所

西宮市総合福祉センター
※定例会・活動の内容により時間・場所が変更になることがあります。

問い合わせ

西宮市社会福祉協議会
地域福祉課
☎0798-23-1140

○高齢者介護者の集い ひまわり会

高齢者を介護するという同じ立場の人が集まり、それぞれの思いをざっくばらんに語り合い、情報交換や学習会を行っています。より良い介護をめざしながら介護者が孤立しないように支えています。

日時 毎月最終水曜日 13:30~15:30(8月はお休み)

年会費 1,200円

○認知症カフェ

認知症カフェは、認知症の人やその家族、医療や介護の専門職、地域の人など、誰もが気軽に参加できる「集いの場」です。活動の内容は地域によってさまざまですが、認知症の人やその家族同士が情報交換するだけでなく、医療や介護の専門職に相談ができ、地域の人との交流の場になっています。



高齢者の
集える場

○西宮いきいき体操

地域の人が集まる身近な場所で、手首や足首におもりをつけ、DVDの映像にあわせて行う筋力アップの体操です。おもりの量を調節したり、座って体操することによって、体力に自信がない方も一緒に体操することができます。

問い合わせ

西宮市保健所
健康増進課
☎0798-35-3294

○地域のふれあいサロン

各地域において、誰もが気軽に集える場として、ふれあい・いきいきサロンを開設しています。公民館、市民館、集会所等で気軽に集い楽しみながら、近所同士の触れ合いから、仲間づくりの輪を広げています。

問い合わせ

西宮市社会福祉協議会
地域福祉課
☎0798-23-1140

○共生型地域交流拠点

子どもも高齢者も障害のある人も地域住民だれもが参加できる常設の拠点です。“いつ行っても誰かいて、気軽にお話できる”そんな居場所を目指したカフェ型の拠点多いのが特徴です。

問い合わせ

西宮市社会福祉協議会
共生のまちづくり推進課
☎0798-61-1361

活動の様子については、西宮市社会福祉協議会 ホームページをご覧ください。

行方不明高齢者等の
早期発見に向けた取り組み

○認知症SOSメール配信事業

認知症により行方不明となる可能性がある人(当事者)の情報を事前に登録し、行方不明となった場合に検索協力者に対して認知症SOSメールで情報提供(※)を行い、早期発見につなげます。

(※)当事者の氏名、住所(町名)・顔写真・行方不明となった状況・服装・体格等

検索協力者 /



- ①該当する二次元バーコードに空メールを送信
- ②メールアドレスに記載のURLから登録内容を入力→登録完了

当事者 /



◎当事者の登録で、顔写真掲載を希望する場合は空メールに写真を添付して送信してください。

○徘徊高齢者家族支援サービス事業

認知症により行方不明となる可能性がある人を介護している家族に、受付センターに問い合わせただけで、居場所を素早く特定できる「位置検索システム専用端末機」をお貸しします。

対象者 ①・②いずれかに該当し、認知症により行方不明となる可能性がある人を介護する家族

①65歳以上

②40～64歳で介護保険の要支援または要介護と認定された方

問い合わせ

西宮市役所
地域共生推進課
☎0798-35-3286

詳細(費用など)については、二次元バーコードより市のホームページよりご確認ください。



相談先等に
関する冊子

○認知症サポートべんり帳

認知症になる前の予防から、症状の進行に応じて利用できる相談窓口やサービス、参加可能な地域活動など幅広い情報を掲載しています。

認知症とともに生きるための手がかりとして、認知症に関心のあるどなたにも見ていただきたい冊子です。

※『認知症サポートべんり帳』は、国の認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）に定められた認知症ケアパスの西宮市版です。

問い合わせ

西宮市役所
地域共生推進課
☎0798-35-3286
詳しくは西宮市役所
ホームページまで

地域・企業
の協力

○認知症サポーターのいるお店

認知症サポーター養成講座を受講された企業・店舗等に対し、認知症の人にやさしいお店の目印としてステッカーを配布しています。



市ホームページに企業、店舗一覧を掲載しています。

問い合わせ

西宮市社会福祉協議会
地域福祉課
☎0798-31-3006

○協力事業者による高齢者見守り事業

協力事業者の日常業務の中で高齢者の気になる様子や変化、異変(※)に気づいた場合に、居住エリアの西宮市高齢者あんしん窓口(地域包括支援センター)に連絡します。

対象 西宮市内で事業を行っており、高齢者と関わる可能性の高い事業所・店舗等



このようなことは
ありませんか?
(※)

- 会話がかみ合わない
- 新聞がたまっている
- 同じものばかり買いにくる

問い合わせ

西宮市役所
地域共生推進課
☎0798-35-3286



認知症サポーター養成講座 事務局

発行 | 社会福祉法人 西宮市社会福祉協議会 地域福祉課
〒663-0913 西宮市染殿町8-17

TEL | 0798-31-3006

FAX | 0798-23-3910